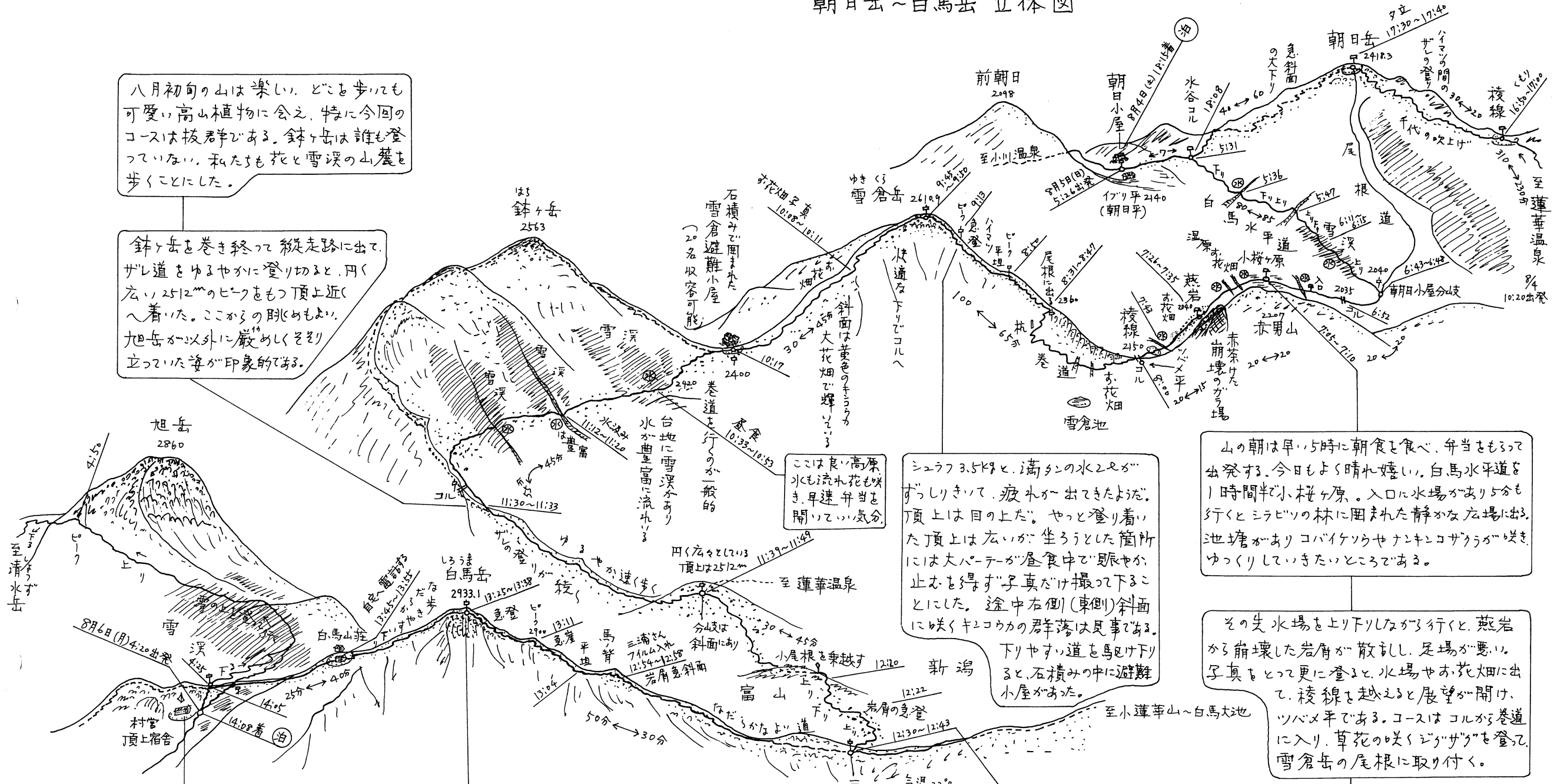


# 朝日岳～白馬岳 立体図

八月初旬の山は楽しい。どこを歩いても可愛い高山植物に会え。特に今回のコースは抜群羊である。鉢ヶ岳は誰も登っていない。和たすも花と雪渓の山麓を歩くことにした。

鉢ヶ岳を巻き終って縦走路に出て。ザレ道をゆるやかに登り切ると、円い広い2512mのピークをもつ頂上近くに着いた。ここからの眺めもよい。旭岳が以外に厳めしくそそり立っていた姿が印象的である。



山の朝は早い。5時に朝食を食べ、弁当をもつて出発する。今日もよく晴れ嬉しい。白馬水平道を1時間半で小鉢ヶ原。入口に水場があり5分も行くとミラビツの林に囲まれた静かな広場がある。池や水たまりがありコバイケソウやナニキソウが咲き、ゆっくりしたいところである。

その先水場を上り下りしながら行くと、燕岩から崩壊した岩屑が散乱し、足場が悪い。子真もとって更に登ると、水場やお花畑に出て、稜線を越えると展望が開け、ツバメ平である。コースはコルから巻道に入り、草花の咲くジグザグも登り、雪倉岳の尾根に取り付く。

「雪倉」という魅力ある名前に比べて、ジグザグ切った岩屑の斜面は長く、見えてはいるがなかなか頂上に着かない。展望は開け、白馬が見え、振り返れば朝日岳の円い頂上まで遠い。汗を拭きながら一途に登るだけ。

シユラフ3.5kgと、満タンの水2レガ、ずりきりして、疲れが出てきたようだ。頂上は目の上だ。やっと登り着いた頂上は広いが、坐ろうとした箇所には大パーターが昼食中で、見張りが止むを得ず、子真だけ撮って下ることになった。途中右側(東側)斜面に、お花畑とコウカの君羊落は、見事である。下りやすい道も馬に下りると、石積みの中に避難小屋があった。

ここは良い高原、水も流れ花も咲き、早速弁当を開いて、気分。

三国境から白馬岳までの標高差200m、コースタイム50分、これはきつに登りだと思っていたが、始めなだらかで、ピークも2回、ときどき平坦になるせいか、一気に登り切ってしまった。一望に子真を撮ると1時半である。計画していた不帰避難小屋までは4時間、頂上宿舎で泊ることにした。

頂上宿舎は新築され、きれいで立派になったことに驚いた。白馬にお目、6年振りであろうが、宿泊者が少ないせいか、2人で5人分の広さを占められ、すぐ草食で一ぱい、始まった。夕食も多く、おかずもよく、量も品数も十分であった。夜は花火で賑やか。

調理場も近代化されたものだ。

長野

新羽  
富山  
長野  
各県の境

三国境まではもう近い。白、ザレの上り下りから最後岩屑を登ると道標があって、こゝで10数人休憩していた。鉢ヶ岳雪渓で汲み上げた2レの冷たい水も、みんなにサービスし、白馬岳の登りに入る。